

廃止措置知識マネジメントにおけるジェネラティビティの重要性 その2 プラント運転知識に関するフォーカスグループ追加調査

Importance of Generativity for the Decommissioning Knowledge Management Focus Group on Plant Operating Knowledge

*樽田 泰宜¹, 小林 重人², 橋本 敬³, 友田 光一¹

¹ 日本原子力研究開発機構, ² 札幌市立大学, ³ 北陸先端科学技術大学院大学

抄録 本研究では、廃止措置におけるジェネラティビティという次世代に伝えていく力に着目し、原子力施設の職員を対象にフォーカスグループを実施した。結果として、後世への継承という視点では若手職員等とベテラン職員では考え方や捉え方に差異があることが明らかとなった。

キーワード：廃止措置知識マネジメント, ジェネラティビティ, 知識マネジメント, 廃止措置, フォーカスグループ

1. 緒言

原子力施設の廃止措置は、建設、運転時の知識が必要不可欠であるが、長期プロジェクトであり、職員の世代交代が発生し、特に建設、運転時の知識の喪失が課題の一つとなっている。本研究では、こうした長期プロジェクトにおける知識の保存、伝達、活用やさらには知識の創造など知識マネジメントに着目する。特に、廃止措置の業務モチベーション等にも影響を与える一因として「ジェネラティビティ」[1][2]という「新しいものを生み出し、育て、次世代に伝えていく力」について廃止措置中の原子力施設の従事者（職員）を対象に知識等の効率的な授受に向けて、過去の知識活用、過去と現在における知識継承の方法についても焦点を当ててフォーカスグループを実施する。

2. これまでの取組と今回の研究結果

これまでの研究では、ジェネラティビティに影響を与える原子力発電所の運転から廃止措置へと大きな事業変化（または転換）を経験している新型転換炉原型炉ふげんの職員を対象に悉皆調査、追加でベテラン職員へ廃止措置における運転時代の知識の活用についてフォーカスグループを実施した。この時の結果は、廃止措置業務でも能動的に知識を習得し、運転時の知識・経験を現在の廃止措置に活用していることを明らかにしている。他にも廃止措置業務に準じた新たな高次の目的意識の形成が調査から示唆されている[3]。

今回の研究では、ジェネラティビティ得点の高い職員を対象とし、主として廃止措置以後に入社した若手職員等に調査を実施した。結果として、運転時代の知識等については、それらをどのように後世に継承させていくかという視点についてはそれほど考慮していない場合もあることが分かった。理由として、保存・継承すべき対象というよりは、業務上必要とする参照情報の一つとして捉えていること、解体という特性上、繰り返し利用するものではなく、一度利用すれば次は不要になる点などが影響していると考えられる。

参考文献

[1] E. H. Erikson: *Childhood and society*, W. W. Norton & Company, New York, 1950.

[2] 丸島令子, 中年期の「生殖性 (Generativity)」の発達と自己概念との関連性について, *教育心理学研究*, Vol.48, No.1, pp.52-62, 2000.

[3] 小林重人, 樽田泰宜, 趙巧, 橋本敬, 2024, 廃止措置における原子力発電所職員のジェネラティビティと知識マネジメント, *横幹*, Vol.18, No.1, pp.26-36, 2024

*Yasuyoshi TARUTA¹, Shigeto KOBAYASHI², Takashi HASHIMOTO³, Koichi TOMODA¹

¹Japan Atomic Energy Agency, ²Sapporo City University, ³Japan Advanced Institute of Science and Technology